

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2874003805		
法人名	株式会社 SOYOKAZE		
事業所名	姫路ケアセンターそよ風		
所在地	兵庫県姫路市神田町4丁目15番地		
自己評価作成日	令和7年2月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/28/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224
訪問調査日	令和7年2月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

食事は施設内のキッチンにて職員手作りにて、提供し、家庭でも食事や季節感を感じて頂けるように工夫して提供させて頂いております

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

デイサービスを併設する家庭的な雰囲気が感じられるグループホームである。1フロアに2ユニットが配置され、木調の温かみと清潔感があり、廊下も広く長くゆったりとした生活環境である。事業所内で献立作り・食材購入を行い、手作りの食事、季節食・行事食を提供している。利用者個々に応じた家事参加、レクリエーション活動、「振り返り」等の回想療法を通じて、楽しみと役割づくり・生活リハビリにつなげ心身の機能低下防止に取り組んでいる。外出行事も再開し、花見や、梅・紅葉鑑賞、初詣、各種工場見学等に出かけ、家族との外出も再開している。主治医・訪問看護と連携し、希望に応じて看取り介護にも対応している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

自己 評価	第三者 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を取り入れた理念が構築出来ていない。	事業所目標を理念とし、事務所内に掲示して共有と理解を図っている。日々の利用者支援や対応を基に、理念の実践に向けた取り組み状況を振り返る機会としている。	事業所目標の中に、地域密着型サービスの意義等を取り入れることが望まれる。また、定期的に理念の実践状況を振り返る機会を設け、理念の実践に向け具体的に取り組むことが期待される。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のごみの日等役員の方々と接する際に、挨拶やお喋りをしている	地域のゴミの日等には地域の役員と挨拶や会話を交わし、散歩・地域の店舗での買い物・近隣の公園での花見等の機会を設け、利用者が地域と交流できるよう支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	トライアルも問い合わせもありましたが、受け皿や職員の対応できるものがない為地域貢献までには至っていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を開催するようになったものの、なかなか家族様の参加も少なく、地域の役員の方への周知も出来ておらず、参加に至っていない	家族・地域包括支援センター職員・事業所職員(管理者2名)等を構成委員とし、2ヶ月に1回開催することとしている。令和6年度は、5月は書面開催し、7月・9月は管理者・職員が参加して事業内で開催し、1月は集合開催していることを議事録から確認し、11月は開催を中止している。会議開催時には、レジュメを基に、利用者状況・行事等事業所の取り組み・食事料金等検討事項について報告し、参加者と意見・情報交換を行っている。議事録・開催案内は全家族に送付している。	地域代表・知見者等の参加が得られるよう取り組むことが望まれる。議事録を「閲覧用ファイル」として玄関に設置し公開しているが、議事録の整理が望まれる。

姫路ケアセンターそよ風

自己 評価	第 三 者	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて、消防署、保健所所に問い合わせを行っている	運営推進会議に 地域包括支援センターから参加があり連携している。相談・質問・報告等があれば、随時、市の介護保険課に、必要に応じて消防署・保健所に問い合わせを行い、適正な運営に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠に関しては、事前に家族様には説明、了承を得て、不穏や不安が見られる時には、職員付き添いのもと、身体拘束のない介護を目指しています	「身体拘束適正化のための指針」を整備し、身体拘束をしないケアを実践している。毎月の全体会議（グループホーム・デイサービス合同）で「身体拘束等の適正化・虐待防止検討委員会」を開催している。委員会では、事例の有無の確認・適正化に向け取り組み等の共有・検討を行い、議事録の回覧により周知を図っている。「身体拘束」研修を、令和6年度は4月に全体会議後に実施し、受講者は「研修報告書」を提出し、欠席者は資料回覧により「研修報告書」を提出している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	自施設の上司だけではなく、多方面から職員の聞き取り、面談実施を設け、風通しのいい職場、施設環境に取り組んでいる	「高齢者虐待防止指針」が整備されている。上記委員会を開催し、6月に「虐待の芽チェックリスト」を実施して振り返りを行い、不適切ケアの防止に取り組んでいる。「高齢者虐待防止」について年度内にビデオ研修を予定している。風通しの良い職場環境整備・個別面談等相談しやすい環境づくりに努め、職員のストレス等が利用者へのケアに影響を与えないよう取り組んでいる。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	出来る限り、研修に参加する機会をもてるように取り組んでいます。現在、後見人制度を活用されているお客様もいらっしゃいます	成年後見制度利用事例があり、後見人への金銭管理に関する書類の提供・面対対応等、制度利用を支援している。今後も、制度利用の必要性や家族からの相談があれば、センター長が窓口となり、施設として支援する体制がある。	今年度は、権利擁護の関する制度についての研修が未実施であるので、来年度は計画的に実施することが望まれる。

姫路ケアセンターそよ風

自己 評価	第三 者	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明と理解をえており、入居後にも必要に応じてその機会を設け、家族からの問い合わせにも細やかな対応を心掛けています。	入居希望・入居相談があれば、見学に対応し、パンフレット・料金表を基にサービス内容・利用料等を説明している。契約時には、契約書・重要事項説明書・同意書・指針等を基に説明し、理解を得て同意を得られるよう取り組んでいる。契約内容改定時には、改定内容を明記した文書を作成し、運営推進会議で説明の上、文書で同意を得ている。入居後にも、家族からの問い合わせ・相談等があれば詳細な説明・対応に努め、必要に応じて市・法人の相談窓口を紹介している。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の開催には至っておりませんが、個別に電話・写真等で現況をお知らせして、意見等あれば運営に反映させております	家族の居室での面会に対応し、面会・電話連絡時等に近況を報告し、家族の意見・要望を把握するよう努めている。毎月、個別の手紙に写真を添えて郵送し、ライン等を活用して日常の様子等を伝え、家族が意見・要望を表しやすいように取り組んでいる。運営推進会議案内・議事録も、全家族に郵送している。把握した要望等は、各ユニットの「連絡ノート」で共有し個別に対応している。利用者の意見・要望は日々のコミュニケーションの中で把握し、サービスに反映できるよう取り組んでいる。運営推進会議に家族の参加があり、事業所や外部者に意見・要望等を表す機会を設けている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常時意見の場を設け、ユニット会議の開催・必要に応じてグループ全体の開催を行い、職員が発言できる場を設けています。	概ね、月1回「全体会議」を開催し、運営・業務等について情報共有・検討を行っている。「グループホームユニット会議」を令和6年4月に書面開催し、利用者状況の共有等を行っている。各会議の議事録のコピー回覧により共有を図っている。日々の検討事項があれば、ライン・ズーム等を活用して検討し、決定事項等があれば「ミーティングノート」または「連絡ノート」で共有し、支援・業務等に反映できるよう取り組んでいる。定期的に年1～2回（人事考課時）、また随時にも個人面談を行い、個別に職員の意見等を聴く機会を設けている。	

姫路ケアセンターそよ風

自己 者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の特徴や特技を把握し、それぞれの得意分野を活かせる様、配慮しています		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の参加までは至っておりませんが、毎月内部にて全体会議の中で、随時研修を行っております。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国の拠点の他センターとリモート会議に参加して交流を図っております		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前、入所後、も不安や要望を傾聴し、安心して生活が出来る環境やサービスを提供できるように努めます。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、キーパーソンとなる家族と懇談する機会を設け、不安や、要望がないか聞き取り、傾聴し、信頼関係を築けるように努力しております。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入するする前に、ケアマネを交え、必要な要望やサービスを提供できるように努めて参ります。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で、同じ時間を助けあって過ごしているという気持ちを持ち、声掛け等が一方的な介護にならないように努めています		

姫路ケアセンターそよ風

自己 者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	受信時は家族様に付き添いをお願いし、お 喋りする機会を設け、お客様の小さな変化 を報告・共有し、ご本人らしく、暮らせるよう に模索しております		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症に配慮した形で面会・支援に努めて います	家族との面会、友人・知人は家族の了解を得 て面会に対応し、馴染みの人との関係継続 を支援している。家族への手紙による毎月 の報告等でも、馴染みの人との関係継続を 支援している。デイサービスの行事開催時等 には参加し、利用者や職員等馴染みの人との 関係継続を支援している。また、家族との 自宅や馴染みの場所への外出を支援してい る。事業所としても、散歩・食材等の買い物・ 花見等の外出等を通して馴染みの場所との 関係継続を支援している。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	座席の配慮も考慮し、出来るだけ、トラブル 回避に努め、1人1人が孤立しないように、十 分な配慮をして支援に努めています		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設への転居・入院等、サービス終了後 も相談支援に努めています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	対話や傾聴、観察等から、本人への思いや りや意向の「把握に努めています	入居時の聞き取りで把握した利用者個々の 思いや暮らし方の希望・意向を、「アセスマ ント表」の本人・家族の「希望・主訴・要望・生活 に対する意向」欄に記録している。入居後の 日々のコミュニケーションで把握した新しい情 報は、各ユニットの「連絡ノート」または「ミー ティングノート」で共有し、必要に応じて「アセ メント表」に追記し、介護計画や支援に反 映できるよう取り組んでいる。把握が困難な 場合は、表情や反応等から汲み取ったり、 「アセメント表」の家族の意向等を参考にし て、利用者の意向に沿った支援に努めてい る。	

姫路ケアセンターそよ風

自己 者第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や家族様との会話や聞き取りにて、把握するように努め、職員間で情報の共有を行っております		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、モニタリングを記録として残し、現状把握に努めています		
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向を、日々職員から発信・聞き取りした意見等を反映し、現状把握に努めます	入居前サービスからの情報・「アセスメント表」等を基に、初回の「介護計画」を作成している。サービスの実施状況は、システム内の「ケアカルテ」と「モニタリング一覧」に記録している。初回は概ね2～3ヵ月後に、その後は必要時は随時、定期的には6ヶ月毎に介護計画の見直しを行っている。見直しの際は、アセスメント・「モニタリング総括表」によるモニタリングをもとにサービス担当者会議を開催している。「アセスメント表」は、変更があれば随時更新している。	PDCAサイクルにもとづく一連の書類をファイリングしているので、様式や方法を統一し、わかりやすくファイリングすることが望まれる。
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアカルテを使い、個々の記録を記入し、介護日誌・連絡ノートを活用・口頭での申し送りも行っています		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所の機能を活用し、出来るだけ、ニーズに応じた支援を行っています		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用・把握は出来ていない		

姫路ケアセンターそよ風

自己 番号	第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に一度の訪問診に加え、週に2回の訪問が入り、体調不良時には主治医に連絡・常時訪問からも変化があれば連絡して頂けるように行っております。	2週間に1回、協力医療機関(内科・神経科)と歯科医による訪問診療体制がある。専門医等外部受診は、家族同行を基本とし、かかりつけ医から紹介状・事業所から「ケアカルテ」情報等で情報提供し連携している。訪問診療・外部受診等の記録は「ケアカルテ」、必要事項は各ユニットの「連絡ノート」または「ミーティングノート」で共有している。週2回訪問看護体制があり、また、緊急時等は併設デイサービスの看護師との24時間協力体制がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に何かあれば訪問に連絡をとり、ご本人の容態変化が相談できるように支援しております		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療機関に情報提供を行ったり、訪問医の方から、も情報提供できるように、連携を図り、本人が不安を感じたり、家族様が不安にならないように各それぞれが連携して行われるように関係作りを行っています	入院時は、「介護サマリー」・「ケアカルテ」情報等で情報提供している。入院中は家族・医療連携室と情報交換を行い、早期退院に向け支援している。退院前カンファレンスが開催されれば参加している。退院時には「看護サマリー」で情報提供を受けて退院時の状況を共有し、退院後の支援方法を検討している。入院中の経過や退院前カンファレンスの情報等は、「ケアカルテ」・「連絡ノート」または「ミーティングノート」等で共有している。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に(急変時や週末期における医療等意見書)を取り交わし、意向確認を行って医療体制がきちんと取れるように努力しております。	契約時に、重度化や終末期に向けた事業所の方針を説明している。重度化を迎えた段階で、主治医から家族に状況を説明し、意向を確認している。看取り介護の希望があれば、看取り介護の同意書を受け、看取り介護に向けての計画書を作成し、主治医・訪問看護師・介護職・家族等が連携して支援に取り組んでいる。家族対応や支援についての経過は、「ケアカルテ」に記録して共有している。看取りに関する研修は3月に予定している。	

姫路ケアセンターそよ風

自己 番号	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に対応したマニュアル作成し、事務所に掲示している。定期的に事故想定した訓練もおこなっております		
35	(17) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に対応したマニュアル作成し、定期的に避難訓練もおこなっております。また、非常食や水の備蓄もしています。火災報知器・スプリンクラーの摂津智も行い、点検も行っています	令和6年度は、11月に「防災訓練計画書」を基に、「日中火災・自然災害による避難訓練」を利用者参加で実施し、訓練実施後に、よかった点・問題点・反省点等を記載した「防災訓練報告書」を作成している。「計画書」「報告書」コピーの回覧により、職員間の共有を図っている。3月に夜間想定訓練を計画している。8月に「災害対応マニュアル・BCPについて」、12月に「災害対応について」の研修を実施している。法人支給の非常食・水等を、備蓄リストを基にローリングストックし、事務所が管理している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(18) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修や勉強会を通して、職員の意識向上を図るように努めます。	6月に「個人情報保護(プライバシー)」研修を実施するとともに、「虐待の芽チェックリスト」により個々が振り返る機会を設け、不適切ケアの未然防止に努めている。高齢者虐待防止について年度内に研修を予定している。気になる言葉かけや対応があれば、職員間で注意喚起・助言を行える環境づくりに取り組んでいる。写真・映像の使用については家族送付に限定し、SNSへの掲載時は、個人が特定できないよう工夫している。契約時に個人情報使用同意書で同意を得ている。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お客様が自己表現しやすいよう、場面に応じた声をおこなっています		

姫路ケアセンターそよ風

自己 評価	第三者 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ、希望に沿って対応できる体制を整える努力を行っております		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的訪問利用をしている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に買い物、盛り付け。簡単な調理も行っている。テーブル拭きや、下膳も無理のない程度に協力して頂いている	事業所で献立づくりを行い、各ユニットで献立に沿って食材購入・調理を行い、手づくりの食事を提供している。献立に季節感・行事食・利用者の希望等を取り入れ、刻み・ミキサー食・ムース等、個別の食事形態にも対応している。誕生日・クリスマス・正月等には、行事食・手作りおやつ等で食事が楽しめるよう取り組んでいる。可能な利用者は、日常的に、盛り付け・配膳・下膳・テーブル拭き等に、また、食事レクリエーション・おやつ作りにも参加できるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量はチェック表を活用。食べやすい形状にしたり、嗜好に合わせて提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けや一部介助にて毎食後行っています。善波は真日、夕食後に預かり、専用洗浄剤を使用。お客様によっては訪問歯科による口腔ケアも利用しています。		

姫路ケアセンターそよ風

自己 番号	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表活用により排泄パターンをつかみ、状況に報じた声掛けや誘導を行っています。利用者様の身体状況やプライドに配慮した支援を心掛けている	ほぼ自立からベッド上の介助まで、排泄の自立度に個人差がある状況である。「インアウトチェック表」・タブレット内の排泄記録で排泄状況や排泄パターンを把握し、個々に応じた介助を行い、可能な限り昼間はトイレでの排泄を支援している。夜間は安全・安眠に配慮し、ポータブル使用・トイレ排泄等利用者個々の状況に応じて個別に対応している。介助方法や排泄用品の使用について検討事項があれば、ライン・ズームで迅速に検討し、ライン・「連絡ノート」または「ミーティングノート」等で共有し、家族の了解を得て現状に適した介助方法・排泄用品の使用につなげている。ドアの開閉・声かけ等、プライバシーへの配慮を周知している。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容や飲み物を工夫したり、適度な運動も心がけ、便秘予防に努めています。下剤の使用等も訪問医又は、訪看に相談・指示にて取り入れています		
45	(21) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めしまわらずに、個々にそった支援をしている	週に2回の入浴を心掛け時間は決めず、二「体調や習慣を考慮し、個別対応をしています	身体状況に応じて、浴槽での入浴・シャワー浴・デイサービスの特浴を使い分けて使用している。「入浴チェック表」を基に入浴状況を把握し、週2回を基本とした入浴支援に取り組んでいる。体調や意向に応じて柔軟に支援し、実施状況は「入浴チェック表」・タブレットの入浴記録で共有している。入浴拒否があれば声掛け等を工夫し、同性介助の希望にも対応し、週2回の入浴機会の確保に努めている。毎回湯を入れ替え、希望者には、4種の入浴剤を準備して選択してもらい、入浴をより楽しめるよう工夫している。	

姫路ケアセンターそよ風

自己 番号	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動を強要せず、居室やリビングなど思い思いの居場所で過ごせるようにつとめている。車椅子を利用している方には、プランにベッドでの休息も取り入れている。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬については処方箋を確認し、わからない事があれば、都度、各関係機関に相談しています		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日が単調にならないように、出来る事はして頂いて、一緒に家事ができるようにしています。		
49	(22) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には出来ていませんが、食材の買い物、ドライブ、散歩と、職員と一緒に外出が出来るように支援しています。季節を感じていただけるように外出計画等も行っています	天候や希望に応じて、近隣への散歩・買い物等日常的に戸外に出かける機会づくりに努めている。ユニットごとに、全員参加を基本とした、初詣や梅・紅葉鑑賞・花見ドライブ等、季節の外出行事や、かまぼこ・ビール・どら焼き等各種の工場見学も行っている。感染対策を行いながら、外出・外食・外泊等家族との外出も支援している。	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理能力の有無に関わらず、今、現在、家族様の同意を得て利用者様が保有することはないように心掛けております。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があれば、家族間で電話が出来よう取り次いだり、年賀状、手紙をやり取りされる方の支援も行っています。		

姫路ケアセンターそよ風

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間に於いて、居心地のいい場所に「なるように、一緒に創作活動を行ったり、おやつ作りを一緒にしたり、笑って、考えて、体を動かして、いごちよく過ごして頂けるように工夫しています	1フロアに2ユニットが配置され、木調の温かみと清潔感がある。利用者が共同制作した季節に応じた作品を飾り、季節感を取り入れている。可能な利用者は配膳・下膳・テーブル拭き・洗濯物たたみ・掃除等の家事に参加し、生活感が感じられるよう支援している。日課としてユーチューブを活用した体操や、個別に脳トレ等を行い、楽しみながら機能の維持・向上が図れるよう取り組んでいる。また、「振り返り」による回想療法を行い、認知機能の低下予防につなげている。廊下も広くて長く、歩行訓練にも活用している。動線や認知症状に配慮した配席の工夫等を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の様子に応じて、その時々に応じた安心できる居場所を提供しています		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、馴染みの家具や小物を持ち込みして頂き、安心して、その人らしい居室になるようにして頂いています	居室に、ベッド・カウンター・クローゼット等が設置されている。テレビ・冷蔵庫・たんす・家族の写真・小物等、使い慣れた家具や馴染みのあるものが持ち込まれ、居心地良く過ごせるよう支援している。入り口に、目印になる花や利用者の写真等を飾り、ネームプレートを目線の高さに設置する等、部屋間違いがないように工夫している。家具の配置を調整する等動線を確保し、安全に自立した生活が継続できるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床はクッション材を使用し、手すり設置等安全に生活出来る様に、また、トイレや浴室も分かり易く表示		

(様式2(1))

事業所名 姫路ケアセンターそよ風

目標達成計画

作成日: 令和 7 年 4 月 5 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4-(3)	運営推進会議で地域の方々が参加できていない	地域の方の参加を促す	現在は、家族、地域包括職員、自治会長の参加がある	2ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。